

総合型地域スポーツクラブにおける市町村合併の影響に関する研究 - 沼南スポーツクラブを事例として -

A case study on influence of consolidation of municipalities in community sports club

1K03A214 - 9 氏名 宮宗 大輔

指導教員 主査 作野 誠一 先生 副査 木村 和彦 先生

【緒言】

わが国では、平成になってから「平成の大合併」と呼ばれる大規模な市町村合併が行われた。この最大の目的は財政のスリム化で、特に人口の少ない小規模地方自治体は、補助金や地方交付税の削減に加え、少子高齢化に伴う町民税などの自主財源が減少された。財政的に苦しい多くの地方自治体は、今まで地方自治体が直接提供していたサービスをほかの事業者や民間組織に担わせる方向に進んでいる。こうした傾向が合併を契機に強まっており、その影響は少なからず地域スポーツクラブにも及んでいると推測される。スポーツにおいても、体育指導委員の減少やそれに伴うサービスの低下、または、スポーツ振興を推進してきた町が合併で統合され、スポーツ団体や地域スポーツクラブ、市体協の連携がとりにくくなるといったことが考えられる。総合型地域スポーツクラブへの期待が高まる一方で、市町村合併は総合型地域スポーツクラブの財政と体育指導委員といった関係組織の再編の変化を加速させたと推測される。地方分権が進むなか、市町村合併は増加しても、減る可能性は低い。こうした中では、総合型地域スポーツクラブへの影響も増加が見込まれる。総合型地域スポーツクラブは「住民の自治的・自律的な活動を基調とするスポーツシステムである」（八代、2000）とされるが、多くの総合型地域スポーツクラブは行政主導の運営で行われているのが現状である。市町村合併は、今まで行政主導だった地域スポーツの運営を、地域で支えるスポーツクラブの創造という時代になるよききっかけとなるであろう。

本研究では総合型地域スポーツクラブにおける市町村合併の影響及びその効果を具体的事例をもとに明らかにすることを目的とする。

【研究方法】

本研究では二つの研究方法により、総合型地域スポーツクラブにおける市町村合併の影響と効果についてのアプローチを試みる。第一に、市町村合併の背景と影響及び効果に関する先行研究をふまえ、市町村合併の経緯とそれに伴う自治体の変化、そして市町村合併の効果および影響について、具体的な事例をとりあげ、これを分析する。

第二に対して総合型地域スポーツクラブ関係者への面接調査を実施し、クラブの現在の活動と、クラブが実際に

感じている市町村合併の影響および効果について調査する。その際には、先行研究において指摘されている影響要因について聞き取りを行うことで市町村合併の影響を明らかにする。

【結果】

総合型地域スポーツクラブにおける市町村合併の影響は、①スポーツクラブの運営が専門的であるため、運営者の人材確保が難しい、②運営者の利便性は向上していない、③行政主導のクラブ運営から、住民やコーチ主導の運営に変化した、クラブの継続的な発展の議論はされていない、④クラブ運営費は減少しており、その影響でのクラブ利用料金の変化はないが可能性として年会費の値上げも考えられる、という4点である。

【考察】

①地域におけるクラブ事業への影響

総合型地域スポーツクラブは地域社会に根を下ろしたスポーツクラブであり、住民の地域づくり、まちづくりといった公共性をもつ。しかし、市町村合併は町のスポーツ振興の衰退を危惧させる結果になっている。比較的規模の大きな都市と合併した町では地域スポーツ活動が衰退する危機に直面しているといえる。沼南スポーツクラブは補助金などで行政に頼ってきたため財政的・人的基盤の弱さを露呈する形になった。

②クラブ組織への影響

市町村合併のクラブ組織への影響は、クラブ運営が行政主導型のクラブ運営から、住民主導型のクラブ運営へ強制されたことである。住民主導型のクラブ運営はスポーツ環境を変革する意図が芽生えてから組織形成されるべきだが、市町村合併はクラブの組織形成を強制し、事業運営を困難にした。

【まとめ】

本研究では、行政主導型クラブとして総合型地域スポーツクラブを運営していた場合は市町村合併の影響で財政的・人的援助を行き届かなくしてしまうということが明らかになった。とくに、合併が都市部の場合、市町村合併で地域スポーツ活動が衰退する危険がある。人口規模の小さな町と中核都市とが合併した場合、合併が地域スポーツ活動を衰退させる一つの原因となる可能性がある。